

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
教育研究評議会（第68回）議事要旨

1. 日 時 令和3年3月18日（木）10：45～12：10
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室・TV会議
3. 出席者 小森議長、石原評議員、井上評議員、郷評議員、小間評議員、佐藤評議員、永原評議員、長谷川評議員、早坂評議員、松本評議員、徳田評議員、金子評議員、井本評議員、斎藤評議員、常田評議員、竹入評議員、阿形評議員、鍋倉評議員、川合評議員、渡部評議員、室賀評議員、南部評議員、岡本評議員
(陪席者)
小川監事、二宮監事
(事務担当者)
岡田総務課長、田中企画連携課長、鈴木財務課長、宮内施設企画室長、国立天文台 笹川事務部長、核融合科学研究所 野田管理部長、岡崎統合事務センター 竹田事務センター長 他
4. 配付資料
 - 1-1 教育研究評議会（第66回）議事要旨（案）
 - 1-2 教育研究評議会（第67回）議事要旨（案）
 - 2-1 令和3年度大学共同利用機関法人自然科学研究機構年度計画（案）のポイント
 - 2-2 令和3年度大学共同利用機関法人自然科学研究機構年度計画（案）
 - 3-1 名誉教授称号授与候補者名簿
 - 3-2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構名誉教授称号授与規程
 - 3-3 名誉教授関係資料
 - 4-1 令和元年度に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）
 - 4-2 国立大学法人及び大学共同利用機関法人の令和元年度に係る業務の実績に関する評価について（所見）
 - 4-3 国立大学法人等の令和元年度評価結果について
 - 5 令和3年度予算案の概要について（自然科学研究機構）
 - 6 令和3年度教育研究評議会開催日程

5. 議事等

議事に先立ち、事務局から定足数の確認があり、定足数に達している旨の報告があった。

1) 議事要旨の確認について

前々回及び前回教育研究評議会（第66回及び第67回）の議事要旨（案）（資料1-1及び資料1-2）が了承された。

2) 令和3年度年度計画の策定について

金子評議員から、資料2-1及び資料2-2に基づき、令和3年度年度計画の策定について説明があり、審議の結果、案(資料2-2)の記載内容を一部修正の上で決定することが了承された。

(主な意見等は以下のとおり)

- N I C Aの趣旨は、どのようなものか。
- 各大学とのボトムアップによる共同研究に加え、大学執行部の意向を取り入れながら、共同利用・共同研究全体の在り方を検討するとともに、各大学に共通する課題等を情報共有し、大学の研究力強化へ貢献するものである。
- クロスアポイントメント制度を活用した若手研究者や女性研究者、外国人研究者に関する数値目標を設定することは良いが、数値目標の達成の先にある教育研究にもたらす具体的なアウトカムを把握し、評価することにより、これを第4期中期目標期間へ繋げていくことが重要である。
- クロスアポイントメント制度の活用は、教育研究への好影響が期待できるため、数値目標だけでなく、具体的なアウトカムをしっかりと把握していきたい。また、それらのアウトカムを見える化し、好循環を生み出していきたい。
- 各研究者の自由な発想による研究活動と、そうではないプロジェクト的な研究活動とのバランスをどのように考えているか。
- プロジェクト的な研究活動においても、自由な発想を源泉とする研究が基本であると考えている。
- これまでのN I C Aの取組みはすばらしいものであるが、若手や中堅の研究者が新しいことへチャレンジできる場を提供することはできないか。また、アストロバイオロジーセンターにおいても、教授クラスのクロスアポイントメントが行われているが、若手・中堅クラスの研究者におけるクロスアポイントメント制度の活用を推進していただきたい。
- 異分野融合に関するプロジェクトにおいて、これまでも若手・中堅クラスの研究者へのサポートに注力している。
- N I C Aフェロー制度においても、参画大学間で若手研究者の派遣が行われている。
- 数値目標は、その達成のみを目的とするのではなく、達成によりどのようなことを目指すのかというコンセプトを明確にすることが重要である。
- 第3期中期計画の策定時には、文部科学省から数値目標の設定を強く求められたことや、研究力強化促進事業における同種の数値目標と整合性を取る必要があるなどの事情があった。
- 女性研究者数については、執行部クラスの女性研究者数にも着目するとともに、目標達成に関するアウトカムについても、これまで使われてきた指標に拘らず、測り方を工夫する必要があるのではないか。
- 女性研究者数の目標達成に関するアウトカムを測る指標については、今後検討していくこととしたい。

3) 名誉教授の称号授与について

事務局から、資料3-2に基づき、機構の名誉教授の称号授与に関する関係規程の説明があった後、名誉教授称号の授与候補者の所属する機関の評議員から、資料3-1及び資料3-3に基づき、名誉教授推薦理由について説明があり、審議の結果、案(資料3-1)のとおり了承された。

4) 令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果について

金子評議員から、資料4-1から資料4-3に基づき、令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

5) 令和3年度予算案について

徳田評議員から、資料5に基づき、令和3年度予算案について報告があった。

6) その他

第4期中期目標・中期計画に関して、以下のとおり意見交換が行われた。

- 核融合研のLHDは、ロードマップ2020に採択されなかった。第4期中期目標・中期計画で、核融合研はどのような研究を行うのか。
- 第4期以降におけるLHDに係る大規模学術フロンティア促進事業等の予算措置については、現在文部科学省と相談中である。第4期中期目標・中期計画は現在検討中であり、次回の評議会において議論する予定である。

小森議長から、資料6に基づき、令和3年度の教育研究評議会の開催日程について説明があった。

以上